

進路指導室から 第341号

はじめに

今日から、本校の後期が始まりました。大学入学共通テストまで95日、国公立大学前期日程まで136日となりました。受験生は、程度の差はあれ不安を抱えているかと思います。残された時間を大切にしながら着実に前に進んで欲しいと思っています。

「令和3年度後期始業式時の講話」について

10月12日（火）の「令和3年度後期始業式時の講話」で以下のようなことを講話しました。

今日は3つのことをお話します。

1つは、大学で学ぶことの目的についてです。

ところで、日本の学校教育は、大きく4つの段階に分けることができます。

幼稚園を就学前教育、小学校のことを初等教育、中学校・高等学校・中等教育学校を中等教育、大学・短期大学・大学院・高等専門学校、専修学校の専門課程(専門学校)のことを高等教育と言います。

現在、各段階の教育においてこれからの時代に見合った教育に変えるべく改革が行われています。1年生はこの後期から情報端末を活用した授業が始まりますが、ICTを活用した「GIGAスクール構想」もその一例です。

さて、高等教育においては、この夏、文部科学省が、大学に対して10兆円規模のファンド(基金)を創設する案を提案しています。これは、政府支出の4.5兆円を出発点とし、民間などから募って10兆円規模にするものです。

この背景には、高等教育の危機感があります。例えば、研究成果である科学論文数の世界ランキングで日本は、かつての2位から4位へと低下しています。また、修士課程から博士課程への進学率は2000年の17%から2017年には9%に激減しています。

このことに係り、総合研究大学院大学長の長谷川真理子さんが、10月10日(日)の毎日新聞の「時代の風」で以下のように述べられています。

日本の大学が現状のままでよいはずはない。だから、10兆円ファンドによって日本の大学を変え、多くの研究成果を出せるようにし、日本を発展させよう、というのはよいことだ。が、私がここで問題にしたいのは、別の点である。高等教育の目的と学ぶ個人にとっての意味についてである。

初等中等教育は、国民全体に等しく基礎的な教育を与えることが目的だ。誰もが、ある程度の知識とスキルを持ち、現代社会の中で自分の力を発揮しながら暮らしていけるようにするのである。読み書きや計算をはじめとする知識と能力がなければ、その後の人生を充実したものとすることは難しいからだ。

国民全体がきちんとした初等中等教育を受ければ、国全体がよくなるに違いない。だから国が教育政策を考えるのだが、しかし、学ぶことの本来の目的は、個人の幸せのためである。

その先の大学は、第一に、初等中等教育以上の高等教育を担うことがミッションだ。では、高等教育の目的は何か。これも、国全体の経済の活性化に役立つ人材をつくるというような、「国力のため」ではなく、どんな人間に育つのか、個人にとっての目的があるはずだ。

それは、現状の範囲内で自分の力を発揮して暮らしていける以上の力を持つことだろう。それは、ものごとを批判的に分析する、異なる文化や言語や価値観の存在を知った上で、それらの違いを超えて問題解決の方向を探る、新しい問題提起をし、新しいビジョンを想像する、などができる力を持つことではないか。

どんな分野であれ、学問とはこのような能力をもとに行われているので、大学では学問を教えている。そのなか中でどんな学問分野を選ぶのかは、個人の好みの問題だが、その道の学者になるのではなくても、学問の営みを通じて、前述のような力を身に付けることが高等教育の目的ではないか。

こういう能力を育んだ人は、社会の中で、ほかとは異なる役割を果たせるだろう。18歳のときに、そんなことを学びたいと思わなかった人も、しばらく社会で働く中で、それを目指すようになるかもしれない。それも結構。高等教育は何も、高校を出てからすぐに続くだけのものではない。

本校では多くの人が大学進学を考えていますが、学ぶ意味について、どのように考えていますか。その意味はそれぞれかと思いますが、幸せという観点から大学進学について考えてもらえたらと思っています。

2つ目は、『解体新書』と『蘭学事始』についてです。

私は、3年生の生徒に「倫理」を教えています。「倫理」では、先人たちの思想や業績について取り上げています。その中には、日本の社会に大きな影響を与えた人物や業績があります。その一つに『解体新書』と『蘭学事始』があります。

『解体新書』は、杉田玄白・前野良沢らによる西洋医学に関する日本最初の翻訳書で、ドイツ人クルムスのオランダ語訳『ターヘル・アナトミア』を苦心の末に翻訳したものです。

1771年に、玄白は、処刑された囚人の解剖に立ち会う機会を得ました。そして、従来の漢学書にある内臓の記述に疑問をもち、『ターヘル・アナトミア』を手にして、実際の臓器を確認します。その結果、『ターヘル・アナトミア』の正確な記述に驚き、玄白らは医学の発展のため、『ターヘル・アナトミア』を翻訳しようと決意します。

なお、玄白はこのときの気持ちを次のように書きのこしています。「基本的な人の体の中も知らずに医者をして

いたとは…、面目もなき次第…。つまり、当時の医者は、主に患者の様子を外から見て病気を判断し、薬を使って治していたため、体の中がどうなっているかという知識がなかったことを告白しています。

こうして翻訳作業が始まりますが、辞書もなくオランダ語がわからないため、作業は困難をきわめます。有名なエピソードとして、「鼻は顔の中でフルヘッヘンドしたもの」の翻訳の話があります。

「フルヘッヘンド」という言葉が出てきた時に、ある本には、「木の枝を切り取るとそのあとがフルヘッヘンドとなる」、また「庭をそうじするとごみが集まりフルヘッヘンドする」とあります。わからず困っていたところ、考え続けた玄白がふと思いつきます。それは「うず高くなる」ということではないのか。玄白は苦心の末、「顔の中でうず高くなっているもの」と、ようやく訳すことができたのです。これは翻訳ではなく、暗号解読作業に近いものだったと言われています。

『解体新書』の出版で日本の医学は大きく前進することになります。またオランダ語の翻訳技術が進み、医学以外の学問も盛んになります。このような西洋の学問を当初は「蘭学」と呼んでいました。『解体新書』の出版をきっかけに「蘭学」を学ぶ人が増え、発達します。やがて、オランダ以外の学問が入ってくる中で、「蘭学」は「洋学」という言葉として置き換わりますが、こうした玄白らの苦勞がなければ日本の近代化はずいぶん遅れたのではないかとされています。

『蘭学事始』は、玄白が『解体新書』の刊行の過程の中で味わった苦心の有り様をつづったものです。原本は大槻玄沢の家に保管されていましたが、安政の地震で失われており、写本だけが残っていました。その後、福沢諭吉が露店で偶然に写本を見つけ、1869年に、『蘭学事始』として出版しています。

その序文の中で、諭吉は『蘭学事始』の次の箇所を紹介しています。「その翌日、みな良沢の家に集まった。そして昨日のことを語りあいながら、とにかくまず、あの『ターヘル・アナトミア』の本に向かった。ところがそれはまことに、艱も舵もない船で大海原に乗り出したかのように、はてしなくひろびろとしてとりつくしまもなく、私たちはただあきれているばかりであった」と。そして、諭吉が玄白らの苦勞を思い、感極まって先が読めなくなったことが書かれています。偶然の発見が、先人たちの偉業に光を照らすことになりました。

3つ目は、松茸の話です。

今は、国産の松茸は高級品です。先日、スーパーで国産の松茸を目にしましたが、なかなか買えるものではありません。それでも、小さかった頃は、山に入ってたくさんの松茸を採った思い出があります。そんなことを話したら、創造表現コースの生徒が松茸を持ってきてくれました。

これが、持ってきてくれた松茸です。なかなか立派です。でも、松茸の香りはしません。生徒がわざわざ作ってくれたものです。当然、食べることはできませんが、その気持ちがすごく嬉しく思いました。最近少し体調がすぐれず、少しモチベーションが下がっていたのですが、こうした優しい心遣いが、これからも頑張っていこうというモチベーションになりました。

今日から後期が始まります。最後にお話することは、各学年のみなさんに期待したいことです。

まずは、3年生。大学入学共通テストまであと残すところ95日です。この時期、誰も不安を抱えています。そして、これから、どんどんライバルたちが志望校から自ら脱落していきます。強い気持ちをもって乗り越えてください。

続いて、2年生。高校生活も後半に入ります。来年度の受験に向けて、意識と生活を変えていく必要があります。自らの進路希望をしっかりと考え、進路希望を叶えるためにも、より一層の努力が求められます。

最後に1年生。高校生活にも慣れてきたと思いますが、入学した時の気持ちや決意をもう一度思い出し、緊張感をもって学校生活に取り組んでください。

「九州大学工学部出張講義」について

以下にて、「九州大学工学部出張講義」を行います。

日 時	: 令和3年10月18日(月) 15:45~16:55(70分)
場 所	: 視聴覚教室
内 容	: 「建築と地震」
講 師	: 九州大学 大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門 教授 神野 達夫 様

現在、進路指導室前に申込用紙を用意しています。建築分野の出張講義は初めての試みです。生徒たちには積極的に参加してもらいたいと思っています。

「2022年度入試動向」について

ベネッセコーポレーションは、「2021年度 高3生総合学力模試・7月」の受験状況をもとに、「2022年度入試動向」について以下のように分析しています。なお、比較の対象は新型コロナウイルス感染症が拡大する前の2019年度としています。

□ 受験人口

18歳人口の推移をみると、2021年度入試を境にして、2024年度まで減少幅が大きくなっており、現高校1年生

が受験する2024年度入試までは2020年度入試を基準として約9%減少することになります。また、2021年度入試は、新入試の初年度であり、移行措置がとられなかったことから、既卒生が大きく減少し、大学入学共通テストの志願者でみると約2割の減少となりました。これにより、現役生の合格者数が増加する傾向がみられ、次年度以降も既卒生の少ない状況が続くものと推測されます。

□ 系統別志望概況

〔国公立大学〕

国公立大学全体の志願者数の対19年度指数を上回っているのは、医学系統（対19年度指数115）、歯学系統（対19年度指数106）、薬学系統（対19年度指数123）、などです。

医学系統・薬学系統の志願者数の増加は、前年度の新入試を控えた安全志向の反動に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって医療系を志す受験生が増加したことなどが背景にあります。一方、語学、国際関係学系統では志願者数の対19年度指数が大きく減少しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって敬遠されているものとみられ、2021年度入試で大きく志願者数が減少しましたが、その傾向が継続しているようです。また、近年人気が続いている情報に関する系統について、特に総合科学系統の総合情報学が対19年度指数133と大幅に増加しています。総合情報学には文理融合とする募集単位も多く、文系系統の全般的な不人気から、情報系統を志望する文系の生徒が増加している可能性も考えられます。

〔私立大学〕

今回の模試では、私立大学全体の志望者数の対19年度指数101を特に上回っているのは、法学系統（対19年度指数106）、芸術学系統（対19年度指数106）、歯学系統（対19年度指数107）、薬学系統（19年度指数109）、などです。薬学系統は近年、志願者数が減少傾向にありましたが、今回の模試では志願者数の増加がめだちました。2021年度入試では国公立大学で薬学系統の人気回復がみられましたが、系統人気は私立大学にも波及しているとみられます。また、語学・国際関係学系統や、社会学系統にある観光学系統では新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり減少しています。

〔学部系統別志望者数の変化〕

	全体	人文科学	語学	法学	経済・経営・商学	社会学	国際関係学	教員養成・教育学	生活科学
国公立大学	97	96	88	100	94	94	86	94	90
私立大学	101	99	83	106	103	104	96	101	95
	芸術学	総合科学	保健衛生学	医学	歯学	薬学	理学	工学	農・水産学
国公立大学	105	96	96	115	106	123	100	96	96
私立大学	106	103	102	101	107	109	102	104	103

□ 国公立大学の志望概況

国公立大学全体の対19年度指数は97ですが、大学グループ別にみると、難関国立10大学（北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、一橋大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、九州大学）の志願者数は103、ブロック大学（筑波大学、千葉大学、横浜国立大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、広島大学、熊本大学、東京都立大学、大阪公立大学）の志願者数は98、その他の国公立大学の志願者数は95となり、入試難易度の高い大学群の志願者指数が高いことがわかります。

〔大学グループ別の志願者数の変化〕

	前期日程			後期日程			総計		
	志願者数		指数	志願者数		指数	志願者数		指数
	2022年度	2019年度		2022年度	2019年度		2020年度	2019年度	
難関公立10大学	105, 114	101, 845	103	7, 711	7, 973	97	112, 825	109, 818	103
ブロック大学	131, 826	131, 923	100	14, 655	16, 162	91	147, 865	150, 977	98
その他の国公立大学	392, 057	406, 617	96	68, 895	77, 516	89	479, 704	504, 742	95

終わりに

結婚を機に神奈川県に生活の拠点を移した卒業生から、新たに大学の広報の仕事に就いたとのメールが届きました。広報は大学の魅力を伝える大切な役割を担っています。もしかしたら、何かの形で縁があるかもしれないと楽しみにしています。

（文責：進路指導部 池本 邦彦）